

2019年10月29日
東京大 江崎 浩

資料4 五神委員のご意見の「SINETの役割の拡張」に関するコメント

以下のような観点が必要ではないかと考える。

マルチステークホルダ「の(3& 4)」、マルチステークホルダ「による(5)」、マルチステークホルダ「のため」の、
世界に開かれた(ドメスティックにならない) グローバルな
デジタル基盤ネットワークの構築と運用による、次世代への「機会」の提供。

1. 次世代に、グローバルな環境と「機会」を提供
2. 信頼できること(“Trustable”)が、自由(“Free”)に発言・発信(“Flow”)可能
3. 「選択と集中」ではなく、「インクルーシブ」なネットワーク
4. 政府施設に依存ではなく、政府施設と個別施設が連携(分散・協調)
5. 運用もマルチステークホルダ(学生や次世代が運用に参画)
6. 利用法を 限定しない
7. ルールベースではなく、コンセンサスベース

(*) 成功参考事例：米国 NSFNet、米国 Internet2、
APAN(Asia Pacific Advanced Network)、
AIII(Asian Internet Interconnection Initiative)

以上